

# まちの話題

## 地元ブランドの米酢の生産を目指し

9月15日、大屋町篠の旧西谷小学校で酢などを生産する但馬醸造株式会社、地元の休耕田を利用して育てていた酢の原材料になる米の「ふくひびき」が収穫期を迎え、社員ら関係者が稲の刈り取りを行いました。

これは、地元産の材料を使った商品作りを目指す同社が、市や地元農家と協力して始めた取り組みです。米の収穫量は約1トを見込んでおり、冬から醸造に入り、春をめどに地元ブランドの米酢として販売されます。

この日は、約25<sup>ア</sup>の田んぼにカマを持った社員ら約15人が入り、

## 子ども歌舞伎クラブ「三番叟」を上演

9月26日、葛畑にある国の重要有形民俗文化財「葛畑の舞台（芝居堂）」が一般公開され、約100人が詰めかけました。

葛畑農村歌舞伎は江戸時代末期に始まったとされ、一時途絶えましたが、平成15年から地元住民が再び演じています。

この日は、舞台装置の説明が行われたほか、「せきのみや子ども歌舞伎クラブ」による日本舞踊「老松」「春雨」「葛畑三番叟」の三つが上演されました。

観客らは、踊りの見せ場を迎えるたびに、客席からおひねりを投げて、大きな拍手を送っていました。

せきのみや子ども歌舞伎クラブの公演は、11月27日（土）ノビアホール・11月28日（日）出石永楽館（豊岡市出石町）で行われます。



日本舞踊などが上演された葛畑の舞台一般公開



刈った稲を束ねる作業を行う社員たち

## 拝啓 市民の皆様

近年にない猛暑がようやく去っていききました。野や畔に目をやると、曼珠沙華が高くなった空に映えて色鮮やかに咲き誇り、郷からは秋祭りの太鼓が響いています。

そんな秋の一日、葛畑にある農村歌舞伎の芝居堂の一般公開に行ってみました。会場に着いて驚いたのは、会場を埋め尽くす観客でした。芝居堂は国指定重要民俗文化財ということで、歌舞伎の愛好家ならずとも見てみたいという思いに駆られたのかもしれませんが、あるいは、公開に合わせて「せきのみや子ども歌舞伎クラブ」の演技が行われましたが、これを目当てに家族や友人が押しかけたのかもしれませんが、それにしてもたくさんの人出です。

そんなことを考えながら説明や演技を見ていて、ふとある考えが浮かびました。

『ひよっとしたら、ここに押しかけた人々は、国指定重要民俗文化財を見ることがではなく、伝統文化が今なお地域の誇りとなり、活力になっている葛畑の住民に出会いに来たのではないか』と。全国的に、伝統的な民俗文化や行事は、高齢化や後継者不足で消滅しつつあると聞きます。文化の絶滅危惧種ともいえます。その中にあって、民俗芸能を地域の誇りとして守り続ける葛畑の皆さんの生き方に多くの人が共感してくれていることは確かです。少々、飛躍しますが、魅力的で人を引きつけることができるまちづくりのヒントは、こういうところにあるのかもしれないと考えました。

市長 広瀬 栄